様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００８９４

研究課題名（和文）高校の英語授業内スピーキング評価における「信頼性確保のための採点指針」の作成

研究課題名（英文）Development of scoring guidelines for ensuring rater reliability in second language (L2) English classroom speaking assessment at senior high schools in Japan

研究代表者
小泉　利恵（Koizumi, Rie）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：７０４３３５７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、高校の英語授業内でスピーキング評価を行うために課題となっている「採点の信頼性の低さ」を解決するための採点指針をまとめることである。以下3点を主に行った。第1に、先行研究のまとめを行い、採点指針を含むスピーキング評価の概説書や関連の論文を出版した。第2に、教員の採点の安定性を確保するために行う採点者トレーニングにおいて使用可能なオンラインポータルを作成し、公開した。第3に、オンラインポータルのビデオを見ながら採点し、採点の安定性を調べる調査を、日本人英語教員と外国人英語教員に対して行った。その結果、全体的には、採点者信頼性は確保できており、オンラインの採点練習の有効性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
授業内評価は、形成的・総括的な機能を持つため、評価の質を高め、継続的に実施することが課題となっている。そのためには、スピーキング評価の採点の信頼性の確保が必要であり、本研究はそれに関連する要素の検証と、実証研究に基づいた、採点の信頼性を高める採点指針作成に向けた活動を行った。既存の大規模テスト向けのものは授業内スピーキング評価では適用できないものが多く、国内外でも実証研究が限られていた。また本研究では、採点方法やタスクの種類、評価観点ごとに、教員採点の信頼性を比較するなどし、採点に関連する評価研究の知見を増やし、それを書籍やポータルで社会に還元することができた。

研究成果の概要（英文）：This research seeks to establish scoring guidelines for ensuring rater reliability in senior high schools. It encompassed three primary initiatives: First, we published an introductory book on speaking assessment, which included scoring guidelines, and relevant scholarly articles. Second, we designed and launched an online Speaking Assessment Portal. Third, utilizing video resources from the Portal, we evaluated rater reliability among Japanese and international English instructors. The findings indicate that an online rater training system is effective in ensuring consistent rater reliability.

研究分野：Language assessment and testing

キーワード：言語テスティング　英語テスト　スピーキング能力測定　信頼性　採点指針　採点者

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

「高校の英語授業内スピーキング評価における「信頼性確保のための採点指針」の作成」

１．研究開始当初の背景

英語授業内スピーキング評価は文部科学省によって実施を強く奨励され、各県では、英語教育改善のためにその目標回数と達成回数を毎年報告している（文部科学省，2024）。そのため、徐々にスピーキング評価を実施する高校が増加し、年間の実施回数も増加しつつある。しかし、金子（2019）によると、高校教員は、スピーキング評価の実施・運用面に大きな不安を抱えている。不安の例として、他教員との採点の不一致や自分の中での採点の一貫性のなさがあり、教員は採点についての助言や参考にできるモデルを求めている。その不安解消のために、採点に関する具体的なアドバイスや支援は、先行研究では使える知見が限られている。そのため、英語授業内スピーキング評価での信頼性を高める手立てを調べ、採点指針を作成し公開することは意義あることだと考えられる。

採点の信頼性確保のための手続きについては、一般的なものは既にまとめられている（例：Knoch et al., 2021; Luoma, 2004）。しかし、国内外の大規模スピーキングテストでは使えても、予算や人員、時間等の制約が大きい授業内スピーキング評価では使えないものが多い。例えば、2名以上での採点や、数時間以上かけた綿密な採点トレーニングの実施や、採点技術が高い者のみが採点する手続き（例：Koizumi et al., 2017）は大規模テストでは一般的だが、授業内評価では実施が難しい。採点トレーニングを事前に行う時間を設けたとしても長くて1時間程度であり、簡単な打ち合わせの時間も確保できずに実施するケースもある。よって日本の教室内評価の現状に則した採点指針を作る必要がある。

２．研究の目的

本研究は、高校の英語授業内でスピーキング評価を行うために課題となっている「採点の信頼性の低さ」を改善するための採点指針をまとめることが目的である。英語を適切に話す力を育成するためには、効果的な指導に加え、指導の効果を測定し、次の指導や学習に活かすためにパフォーマンス評価を行うことが必要である。しかし教員間や教員内での採点結果が一致するとは限らず、採点の安定性（信頼性）が低いことが問題となっている。

本研究の目的は主に2つある。第1に、採点の信頼性の低さを改善することを目標とし、採点指針としてまとめるために、高校の英語授業でのスピーキング評価の文脈で、採点の困難さを生み出す要因に焦点をあて、採点で用いるタスクの種類や評価観点ごとに信頼性の高低を調べることである。第2に、採点方法やスピーキング評価全般について、教員が理解を高めるのに役立つリソースを作成することである。

３．研究の方法

第1の目的である、採点の信頼性の確保を目指した採点指針の作成に向けた研究については、主に以下3つの研究を行った。

(1) Koizumi and Watanabe (2021)：日本の高校における教室内スピーキング評価における、発表とやり取りの様々なタスク形式を用いた場合の採点者信頼性（論文）
　英語学習者：高校生　採点者：高校教員（日本人・外国人）と研究者
　タスク：面接、プレゼンテーション、ペア型会話等

(2) 小泉・初澤・磯部・松岡 (2022)：日本の高校における、教室内グループ型のディスカッションとディベートの場合のスピーキング評価の採点者信頼性（論文）
　英語学習者：高校生　採点者：高校教員（日本人）

タスク：ディスカッション、ディベート

(3) 小泉・印南（2023)：日本人英語教員と外国人教員の会話型テストにおける、話すこと（やり取り）の評価の採点者信頼性（口頭発表）
英語学習者：大学生　採点者：高校教員（日本人・外国人）と研究者
タスク：面接

第2の目的である、採点方法やスピーキング評価全般についてのリソース作成については、以下4点を行った。

(a) 小泉（2021)：教室内英語スピーキングテストの適切な採点に向けたガイドラインの素案（講演）
(b) Koizumi（2022a)：日本の中学校・高等学校の教室における第二言語スピーキング評価（論文）
(c) 小泉（2022b)『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』（概説書）
(d) Koizumi（2023)：学習のための第二言語教室内スピーキング評価を作り上げる（ワークショップ）
(e) スピーキング評価実行委員会（2024)：スピーキング評価ポータル（ウェブサイト）

４．研究成果

第1の目的である、採点の信頼性の確保を目指した採点指針の作成に向けた研究については、主に以下3つの知見が得られた。これらの結果を基に、以下を土台とした、採点の信頼性確保のための採点指針を作成中である。

・3つの研究どれにおいても、教員である採点者は、全体的には、分析に使用した多相ラッシュ分析のモデルの予想を上回る一致度を示し、安定性も十分みられた。しかし、細かに分析すると、3段階のAとCなど採点差が大きかった場合もあり、改善が必要と思われた。
・採点者間信頼性の向上が特に必要と思われたのは、グループ型のやり取りを測るテストにおいてで、その中でも、どのような発話がなされ、受験者がどのような順番で話すかが予測できない場合だった。信頼性を高めるためには、発話や発話順番の統制が必要だが、その場合は、実社会での発話から遠くなるなど、妥当性が低くなる等の問題も考えられ、どの要素を重視するかなどの検討が必要と思われた。
・採点者トレーニングについては、長時間行うことは難しいため、テスト直後に数組を採点して話し合う方法をとったり、事前に短時間話し合ったり、各自ビデオを見て採点練習を行った後に本番の採点を行ったりした。そのどの方法も、採点の質を十分保ちつつ進められる可能性があることが示唆された。

第2の目的である、採点方法やスピーキング評価全般についてのリソース作成については、上記(a)～(e)が成果物となった。ポータルの中で、特に力を入れたのが（e）の「スピーキング評価ポータル」であった。その中に含めた内容の例は以下である。

・「スピーキングテストの実例と解説」のビデオを計120本掲載。教員との会話やペア型会話のテストの様々な難易度のタスクと、それに対する採点基準、学習者の発話とその採点がビデオや資料で確認可能
・「テスト作成のための材料・参考資料」として「都道府県教育委員会などが作成した資料」や「やり取りする力のチェックリスト」を作成して掲載。やり取りの良い例・悪い例を探すのに

役立つ「Cambridge英検のビデオ例」をまとめ、国研の参考資料の解説ビデオ（日本語版・英語版）を掲載
・スピーキング評価を行うための基礎知識やさらに学ぶためのリソースを掲載

ポータル作成の予備段階では、経験豊富な現・元英語教員にポータルの内容や提示方法の確認を依頼し、そのフィードバックを元に修正を行った。ある程度完成した段階で、小学校・中学校・高校の教員に詳細に内容を批判していただき、改善点を洗い出した。その点を基に、さらに使いやすく役立つポータルにするための改善を行っているところである。

引用文献

金子淳（2019）．『中高連携を踏まえた、英語授業におけるアクティヴィティとパフォーマンス・テスト開発に関する調査研究』(公益財団法人やまがた教育振興財団 平成30年度「教員養成に関する調査研究事業」調査研究報告書)．https://www.gakushubunka.jp/scholarship/kenkyugaiyou_kaneko_h30.pdf

Knoch, U., Fairbairn, J., & Jin, Y. (2021). *Scoring second language spoken and written performance: Issues, options and directions*. Equinox.

小泉利恵（2021, 9月18日）．「教室内英語スピーキングテストの適切な採点に向けたガイドライン」令和3年度大阪大学マルチリンガル教育センター公開講座「英語教育オンラインセミナー」

Koizumi, R. (2022a). L2 speaking assessment in secondary school classrooms in Japan. *Language Assessment Quarterly*, *19*(2), 142–161. https://doi.org/10.1080/15434303.2021.2023542

小泉利恵（編）.（2022b）．『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』 大修館書店.

Koizumi, R. (2023, September). *Creating L2 classroom-based speaking assessment for learning*. Workshop held at the 9th Annual International Conference of the Asian Association for Language Assessment (AALA), Chuo University, Tokyo. https://aala2023tokyo.wixsite.com/home/workshops

小泉利恵・初澤晋・磯部礼奈・松岡京一（2022）．「日本の高校におけるスピーキング評価の採点者信頼性―教室内グループ型のディスカッションとディベートの場合」 *JALT Journal*, *44*(2), 281–322. https://doi.org/10.37546/JALTJJ44.2-5

小泉利恵・印南洋（2023）．「話すこと（やり取り）の評価における採点者信頼性―教員との会話型テストにおける調査―」 『全国英語教育学会 第48回香川研究大会発表予稿集』(pp. 56-57)．全国英語教育学会.

Koizumi, R., Okabe, Y., & Kashimada, Y. (2017). A multifaceted Rasch analysis of rater reliability of the Speaking Section of the GTEC CBT. *Annual Review of English Language Education in Japan*, *28*, 241-256. https://doi.org/10.20581/arele.28.0_241

Koizumi, R., & Watanabe, A. (2021). Rater reliability in classroom speaking assessment in a Japanese senior high school. *Annual Review of English Language Education in Japan*, *32*, 129–144. https://doi.org/10.20581/arele.32.0_129

Luoma, S. (2004). *Assessing speaking*. Cambridge University Press.

文部科学省（2024）．「令和5年度「英語教育実施状況調査」の結果について」 https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00005.htm

スピーキング評価実行委員会（2024）：スピーキング評価ポータルサイト.

https://sites.google.com/view/speaking-assessment/

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計22件（うち査読付論文　16件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 小泉利恵・阿川敏恵・高橋閑	４．巻 15
２．論文標題 英語4技能テストのスコアレポートを用いた学習の有用性―大学生の反応から	５．発行年 2023年
３．雑誌名 言語教育研究	６．最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Koizumi Rie, In'nami Yo	４．巻 120(103208)
２．論文標題 Predicting functional adequacy from complexity, accuracy, and fluency of second-language picture-prompted speaking	５．発行年 2024年
３．雑誌名 System	６．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.system.2023.103208	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小泉利恵・濱田彰	４．巻 72(1, 4月号)
２．論文標題 「学習のための評価」を理解するための基礎知識（連載「外国語評価リテラシーを高めよう」第1回）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 英語教育	６．最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小泉利恵・真家崚	４．巻 72(3, 6月号)
２．論文標題 英語教育研究におけるオープンサイエンス（連載「データサイエンス時代の英語教育研究」第3回）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 英語教育	６．最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵	4．巻 72(5, 8月号)
2．論文標題 継続性を意識した授業内スピーキングテスト――生徒会話型テストを例に」（第２特集：誌上シンポジウム 英語スピーキングテストについて考えてみよう）	5．発行年 2023年
3．雑誌名 英語教育	6．最初と最後の頁 40-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵・初澤晋・磯部礼奈・松岡京一	4．巻 44(2)
2．論文標題 日本の高校におけるスピーキング評価の採点者信頼性―教室内グループ型のディスカッションとディベートの場合	5．発行年 2022年
3．雑誌名 JALT Journal	6．最初と最後の頁 281-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.37546/JALTJJ44.2-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., & In’nami, Y.	4．巻 25
2．論文標題 Assessing functional adequacy using picture description tasks in classroom-based L2 speaking assessment	5．発行年 2022年
3．雑誌名 JLTA Journal	6．最初と最後の頁 60-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20622/jltajournal.25.0_60	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., Agawa, T., Asano, K., & In'nami, Y.	4．巻 12(53)
2．論文標題 Skill profiles of Japanese English learners and reasons for uneven patterns	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Language Testing in Asia	6．最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40468-022-00203-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kubota, K., Yokouchi, Y., & Koizumi, R.	4．巻 19(3)
2．論文標題 Language Assessment Quarterly	5．発行年 2022年
3．雑誌名 “Assessment research for the benefit of humanity”: An Interview with Randy Thrasher and Yoshinori Watanabe	6．最初と最後の頁 314-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15434303.2021.1931232	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵・阿川敏恵	4．巻 14
2．論文標題 1年生向け共通英語科目Seisen Studies in Englishに対する学生・教員の反応	5．発行年 2022年
3．雑誌名 言語教育研究（清泉女子大学言語教育研究所）	6．最初と最後の頁 117-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵・髙木修一・久保田恵佑	4．巻 0
2．論文標題 高校における「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価	5．発行年 2022年
3．雑誌名 英語教育2022年8月号別冊 新課程対応 テスト・評価のアップデート・マニュアル	6．最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵・中津原文代	4．巻 71(7，9月号)
2．論文標題 東京都中学校英語スピーキングテストの有効活用を目指して	5．発行年 2022年
3．雑誌名 英語教育	6．最初と最後の頁 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Fukazawa, M	4．巻 50
2．論文標題 New Course of Study Goals and Actual Teaching Practices in High School English Classes: Is the Gap Narrowing?	5．発行年 2022年
3．雑誌名 九州英語教育学会紀要	6．最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 深澤真	4．巻 9(1)
2．論文標題 教室内言語評価に対する中学校教員の意識	5．発行年 2022年
3．雑誌名 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 漢那有希子・深澤真	4．巻 19
2．論文標題 CLILを活用した授業が生徒の思考の深まりと英語の表現力に与える効果―中学生の視点から見た一考察―	5．発行年 2023年
3．雑誌名 沖縄英語教育学会紀要	6．最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sumimoto, H., Saito, K., Takeda, C., & Koizumi, R.	4．巻 67(2)
2．論文標題 Will multiple-answer multiple-choice questions work effectively in the Common Test from 2020?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Juntendo Medical Journal	6．最初と最後の頁 96-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14789/jmj.2021.67.JMJ20-WN01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Inage, M., Tachibana, Y., & Koizumi, R.	4．巻 67(2)
2．論文標題 Comparison of entrance selection systems for medical schools in Japan and the United States	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Juntendo Medical Journal	6．最初と最後の頁 103-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14789/jmj.2021.67.JMJ20-WN02	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Iwao, S., Shino, Y., Kameya, M., Kojima, T., & Koizumi, R.	4．巻 67(3)
2．論文標題 Why are there differences between student performance on term tests and external achievement tests?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Juntendo Medical Journal	6．最初と最後の頁 226-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14789/jmj.JMJ21-WN01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fukazawa, M.	4．巻 49
2．論文標題 Have English Entrance Examination at Japanese Universities Changed over the Last Two Decades?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 九州英語教育学会紀要	6．最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., & In ’nami, Y.	4．巻 11
2．論文標題 Structural equation modeling of vocabulary size and depth using conventional and Bayesian methods.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Frontiers in Language Assessment and Testing (Published in Frontiers in Psychology and Frontiers in Communication)	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2020.00618	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., In'nami, Y., & Fukazawa, M.	4．巻 23
2．論文標題 Comparison between holistic and analytic rubrics of a paired oral test.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JLTA Journal	6．最初と最後の頁 57-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20622/jltajournal.23.0_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., & Watanabe, A.	4．巻 32
2．論文標題 Rater reliability in classroom speaking assessment in a Japanese senior high school.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ARELE: Annual Review of English Language Education in Japan	6．最初と最後の頁 129-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20581/arele.31.0_129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計38件（うち招待講演　19件／うち国際学会　14件）

1．発表者名 小泉利恵
2．発表標題 授業内スピーキングテストの継続的な実施に向けた取り組み
3．学会等名 立教大学公開シンポジウム「英語スピーキングテストについて考えてみよう」 第2部パネルディスカッション パネリスト．立教大学（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Koizumi, R., Agawa, T., In'nami, Y., & Takahashi, S.
2．発表標題 Implementing a learning-oriented digital score report activity: Focus on changes in learning motivation and test perception
3．学会等名 44th Language Testing Research Colloquium. New Yorker Hotel, NY, U.S.A.（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 小学校外国語教育における言語活動とその評価
３．学会等名 令和5年度小学校英語実践研修．栃木県総合教育センター（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kaneko, E., Koizumi, R., & Hirai, A.
２．発表標題 Effect of a surprise and a back story on the performance of a narrative task
３．学会等名 24th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences (JSLS 2023). Tama Campus, Chuo University（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵・印南洋
２．発表標題 話すこと（やり取り）の評価における採点者信頼性―教員との会話型テストにおける調査―
３．学会等名 全国英語教育学会 第48回（統一体第22回）香川研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 多相ラッシュ分析入門―パフォーマンステストのスコアを分析する
３．学会等名 外国語教育メディア学会（LET）62（2023年度全国研究大会）ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Creating L2 classroom-based speaking assessment for learning
３．学会等名 9th Annual International Conference of the Asian Association for Language Assessment (AALA), Chuo University (Workshop)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Koizumi, R., & Hoshino, Y.
２．発表標題 Symposium: Issues and solutions in assessing young language learners [Served as discussants]
３．学会等名 9th Asian Association for Language Assessment (AALA 2023), Chuo University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Allen, D., & Koizumi, R.
２．発表標題 An analysis of the criticisms of the ESAT-J using the sociocognitive framework
３．学会等名 Japan Language Testing Association Annual Conference 2023. Tohoku University（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵・末森咲
２．発表標題 「英語授業におけるパフォーマンス評価の重要性や意義について」（講演）.「実践報告に対する講評・CLIL授業におけるアセスメントに対する提案」（シンポジウム）
３．学会等名 第13回 日本CLIL教育学会中高部会研究会．於：国立オリンピック記念青少年総合センター（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 英語授業におけるパフォーマンス評スピーキング評価の改善に向けた取り組み―採点者信頼性の検証とポータルサイト開発―
３．学会等名 第１回言語学習評価研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 初澤晋・上原美咲・澤井奈生子・小泉利恵・深澤真
２．発表標題 スピーキング評価ポータルサイト―小中高の実践から見た有用性と改善点」シンポジウムパネリスト
３．学会等名 第１回言語学習評価研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kaneko, E., & Koizumi, R.
２．発表標題 A priori difficulty estimation of speaking test prompts
３．学会等名 49th JALT (Japan Association for Language Teaching) 2023. Tsukuba International Congress Center (Epochal Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 神谷信廣・周育佳・小泉利恵・印南洋
２．発表標題 パネルディスカッション「英語4 技能を測定することの意義と課題」パネリスト
３．学会等名 英語教育学シンポジウム「大学入学試験における英語4技能の測定」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 小学校外国語教育における言語活動とその評価
３．学会等名 令和4年度小学校英語実践研修．栃木県総合教育センター（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 校内英語スピーキングテストにおける現状と今後
３．学会等名 未来の先生フォーラム2022．オンライン開催（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 高校における英語スピーキングテストの理論と実践―授業内実施、授業内採点に向けて
３．学会等名 令和4年度青森県高等学校教育研究会外国語部会研究大会．於：青森県総合社会教育センター（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 教室内英語スピーキングテストの理論と実践―作成、実施、採点、フィードバックのサイクルを意識して
３．学会等名 令和4年度栃木県高等学校教育研究会英語部会秋季研究大会での講演．於：とちぎ青少年センター（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 校内英語スピーキングテストの理論と実践―観点別評価を指導に活かすために
３．学会等名 長野県教育委員会 「英語指導力アップスキルプロジェクト研修会」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 深澤真
２．発表標題 中学校における英語テストの現状： 思考・判断・表現の評価に焦点を当てて
３．学会等名 九州英語教育学会佐賀研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 CEFR-J 話すこと（やりとり）タスクにおける到達基準の設定
３．学会等名 ELPA英語教育セミナー2021（言語テスト：目標の到達と未到達―大友賢二先生追悼―）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 教室内英語スピーキングテストの適切な採点に向けたガイドライン
３．学会等名 令和3年度大阪大学マルチリンガル教育センター公開講座「英語教育オンラインセミナー」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 小学校外国語教育における言語活動とその評価
３．学会等名 令和3年度小学校英語実践研修（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Introduction. In R. Koizumi (Chair) & F. Nakatsuhara (Discussant). Implementing formative and summative classroom assessments of speaking and writing: Promises and challenges of learning-oriented practices [Symposium]
３．学会等名 43rd Language Testing Research Colloquium（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Koizumi, R., Watanabe, A., Fukazawa, M., & Inoue, C.
２．発表標題 Formative test feedback in classroom-based speaking assessment in a Japanese senior high school. In R. Koizumi (Chair) & F. Nakatsuhara (Discussant). Implementing formative and summative classroom assessments of speaking and writing: Promises and challenges of learning-oriented practices [Symposium]
３．学会等名 43rd Language Testing Research Colloquium（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Koizumi, R., Inoue, C., Fukazawa, M., Yokouchi, Y., & Yamamoto, M.
２．発表標題 Developing and evaluating an online resource on classroom speaking assessment for Japanese secondary school teachers of English [Work in progress]
３．学会等名 43rd Language Testing Research Colloquium（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 In’nami, Y., Koizumi, R., Jeon, E. H., & Arai, Y.
２．発表標題 L2 listening comprehension and its correlates: A meta-analysis of correlation. In Jeon, E. H. (Chair), In’nami, Y., & Koizumi, R. (Discussants). Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations [Symposium]
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2022（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 L2 speaking and its correlates: A meta-analysis of correlation coefficients. In Jeon, E. H. (Chair), In’nami, Y., & Koizumi, R. (Discussants). Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations [Symposium]
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2022（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 Discussant remarks. In Jeon, E. H. (Chair), In’nami, Y., & Koizumi, R. (Discussants). Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations [Symposium]
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2022（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 深澤真
２．発表標題 日本の高校における英語の授業は学習指導要領に基づき変化したか
３．学会等名 第49回九州英語教育学会長崎大会．オンライン
４．発表年 2021年

１．発表者名 深澤真
２．発表標題 小学校外国語・外国語活動における評価に対する教員の意識ー評価項目の重要度と評価方法に焦点を当ててー
３．学会等名 第21回小学校英語教育学会 関東・埼玉大会．オンライン
４．発表年 2021年

１．発表者名 Koizumi, R., Watanabe, A., Fukazawa, M., & Inoue, C.
２．発表標題 Examining learner perception toward test feedback in classroom-based speaking assessment using a validity framework.
３．学会等名 LTRC/ALTAANZ Online Celebratory Event 2020.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Introduction.
３．学会等名 Koizumi Kaken 1st Research Meeting（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 平井明代・横内裕一郎
２．発表標題 教室内技能統合型スピーキングテストにおけるルーブリックと採点
３．学会等名 小泉利恵科研プロジェクト第2回例会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小泉利恵・渡邉聡代・初澤晋・磯部礼奈・松岡京一
２．発表標題 高校の教室内スピーキングテストにおける採点に関する課題
３．学会等名 小泉利恵科研プロジェクト第2回例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小泉利恵・深澤真・横内裕一郎・井上千尋
２．発表標題 プロジェクト報告2：高校の英語授業内スピーキング評価における「信頼性確保のための採点指針」の作成に向けて
３．学会等名 小泉利恵科研プロジェクト第2回例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 井上千尋
２．発表標題 大規模スピーキングテストにおける採点の運用と課題
３．学会等名 小泉利恵科研プロジェクト第2回例会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 深澤真
２．発表標題 スピーキングの指導と評価：新学習指導要領の導入にあたって
３．学会等名 中部地区英語教育学会 三重支部例会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計8件

1．著者名 Koizumi, R., In’nami, Y., & Jeon, E. H.	4．発行年 2022年
2．出版社 John Benjamins	5．総ページ数 388
3．書名 Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations (E. H. Jeon & Y. In’nami (Eds.); chapter title: L2 speaking and its internal correlates: A meta-analysis)	

1．著者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.	4．発行年 2022年
2．出版社 John Benjamins	5．総ページ数 388
3．書名 Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations (E. H. Jeon & Y. In’nami (Eds.); chapter title: L2 speaking and its external correlates: A meta-analysis)	

1．著者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.	4．発行年 2022年
2．出版社 John Benjamins	5．総ページ数 388
3．書名 Understanding L2 proficiency: Theoretical and meta-analytic investigations (E. H. Jeon & Y. In’nami (Eds.); chapter title: Discussion, limitations, and future research)	

1．著者名 小泉利恵（編著)、横内裕一郎（著)、深澤真（著）他	4．発行年 2022年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 189
3．書名 実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド	

1．著者名 Koizumi, R.	4．発行年 2021年
2．出版社 Cambridge University Press	5．総ページ数 353
3．書名 The Telephone Standard Speaking Test: An outside evaluator’s investigation of a rebuttal to the generalization inference. In C. A. Chapelle & E. Voss (Eds.), Validity argument in language testing: Case studies of argument-based validation research (pp. 154-175).	

1．著者名 Suzuki, Y., & Koizumi, R.	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge.	5．総ページ数 517
3．書名 Using equivalent test forms in SLA pretest-posttest design research. In P. Winke & T. Brunfaut (Eds.), The Routledge handbook of second language acquisition and language testing (pp. 457-467).	

1．著者名 深澤真	4．発行年 2021年
2．出版社 協同出版	5．総ページ数 215
3．書名 「第1章 Q5 中学校と高等学校の「話すこと〔やりとり〕〔発表〕」の目標の相違点を 説明しなさい」 卯城祐司・樫葉みつ子（編）『新・教職課程演習　第18巻中等英語科教育』(pp. 18-19)	

1．著者名 深澤真	4．発行年 2021年
2．出版社 協同出版	5．総ページ数 215
3．書名 「第2章 Q8 CEFRとは何かを説明しなさい」 卯城祐司・樫葉みつ子（編）『新・教職課程演習　第18巻中等英語科教育』(pp. 26-29)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

スピーキング評価ポータルサイト
https://sites.google.com/view/speaking-assessment/
スピーキング評価ポータルサイト
https://sites.google.com/view/speaking-assessment/
研究例会
http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=21
小泉利恵（筑波大学）ウェブサイト
https://sites.google.com/view/riekoizumiwebsite/home?authuser=0

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	深澤　真 (Fukazawa Makoto) (00634429)	琉球大学・教育学部・教授 (18001)	
研究分担者	横内　裕一郎 (Yokouchi Yuichiro) (40782800)	弘前大学・教育推進機構・助教 (11101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Koizumi Kaken 1st Research Meeting	2020年～2020年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関